

1. 「令和3年度学校評価」の結果から

これまで「児童」「保護者」「教職員」と3回にわたり、本校の「令和3年度学校評価」の結果を掲載してまいりました。今回は、その中から「肯定的意見の割合が80%未満」のものを挙げてみます。

まず「児童アンケート」ですが、20項目中5項目が該当します。数値の低いものから順番に列挙します。

- ① 家庭学習を60分以上（高学年）している (57%)
- ② 自分からあいさつをしている (64%)
- ② 悩みや不安があるときに、相談しようと思う先生がいる (64%)
- ④ 身のまわりの整理整頓を心がけている (69%)
- ⑤ 早寝・早起き、朝食をとるなど、規則正しい生活をしている (70%)

次は「保護者アンケート」です。21項目中1項目が該当します。数値の低いものから順番に列挙します。

- ① 学校の図書の日や読書指導は、子どもの読書意欲を高めている (78%)

最後に「教職員アンケート」です。21項目中0項目でしたが、数値の低いものから順番に列挙します。

- ① 児童の読書意欲を高める実践をしている (86%)
- ② 学級通信や学年だより、ホームページ等で学校や子どもの情報を発信している (89%)

この結果を通して、摂陽小学校としての課題は「学力向上」である、ということがわかります。そして、そのための手立てとして、「学習習慣づくり」、「基本的生活習慣の確立」、「教育相談活動の充実」により一層取り組む必要があります。

また、「令和3年度学校評価」の結果の中で、「児童」「保護者」「教職員」三者の数値が離れているものにも注目する必要があります。例えば、1番目の項目「学校へ行くのが楽しい」の場合、児童の肯定的意見は80%ですが、保護者の肯定的意見は91%、教職員の肯定的意見は90%となっています。これは、コロナ禍において児童にとって体育大会や音楽会、自然学校など縮小された学校行事もあり、「学校へ行くのが楽しい」の割合が若干低くなっていますが、保護者や教職員の立場としては、コロナ禍において、感染症対策を図りながら行事を行ってきたとの意識の差が現れているのではないかと考えられます。

さらに、教職員アンケートや保護者アンケートでの「読書意欲を高める実践について」は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、図書館の利用や読み聞かせなどを制限していたことが大きいと考えられます。

私たち教職員は、子どもたちの意見やことばに耳を傾け寄り添うことに、これまで以上に取り組まなければなりません。そして、子どもたちの良さを認め、伸ばすことに力を入れる必要があります。学校生活の中で、自分の力を発揮できる場所があるということが、自分の居場所があるということにつながり、そのことが「学校へ行くのが楽しい」ということにつながるからです。

本校ではこれらの結果を受け、3学期から、また新年度に向けて、新型コロナウイルス感染症対策を進めながら、一人ひとりの理解を高める取り組みを充実させていくなどの具体的な方策を挙げて取り組んでまいります。

ご家庭でもご理解、ご協力、どうぞよろしくお願いいたします。

※今回の「学校だより」では、「令和3年度学校評価」の結果からどのように改善していくかについてを一部掲載させていただきました。「学校評価」については教職員はもちろん、学校運営協議会委員の皆さまとも話し合い、「令和3年度学校評価総括表」としてホームページで公表いたします。そちらもどうぞご覧ください。